

第

二内の戦力

軍動員、強化に伴い、軍費、素質、逐次低下し、特に本土決戦

兵備、建設ニ著其度、益々急激トナリ

山 現役者保有率ノ推移

現役者、保有率、全役的ニ大東亞開戦前約六〇%ナリ

対

昭和十九年末、約六〇%ニ低下シ、昭和二十年、本土兵備

定率ノ概算、約五〇%以下ニ低下シ、約二〇%ナリ

特、軍、精強度、最も劣化、存役、在り、大東亞開戦前

開始前約五〇%、現役者、保有率、約二〇%ニ低下シ、昭和十九年末、約一〇%

二九一

明治三十八年十一月一日

明治十四年陸軍軍人定級別進分表附表 一冊

明治十四年及昭和十一年停枚定級別進分表附表 一冊

昭和十九年花巻若兵科長素野徹見表附表 一冊

原案・副本ノ1と判

1148

427

率 比	計	兵	官 士 准 官 士 下	校 將	分 區
60 %	726000	582000	112000	32000	現 役
11 %	132000	38000	59000	35000	役 備 豫
29 %	349000	349000			役 兵 充 補
100 %	1207000	969000	171000	67000	計
	100 %	80 %	14 %	6 %	率 比

第一陸軍軍人役種別区分表  
 此所記は其の概要を以てし  
 詳細は別表を参照せ

軍動員兵力増大に伴い其の素質も低下するに注意せ

軍の素質を向上

内の戦力

陸軍  
 海軍  
 航空隊

大東研究所

五九一二

428

1149  
 1150

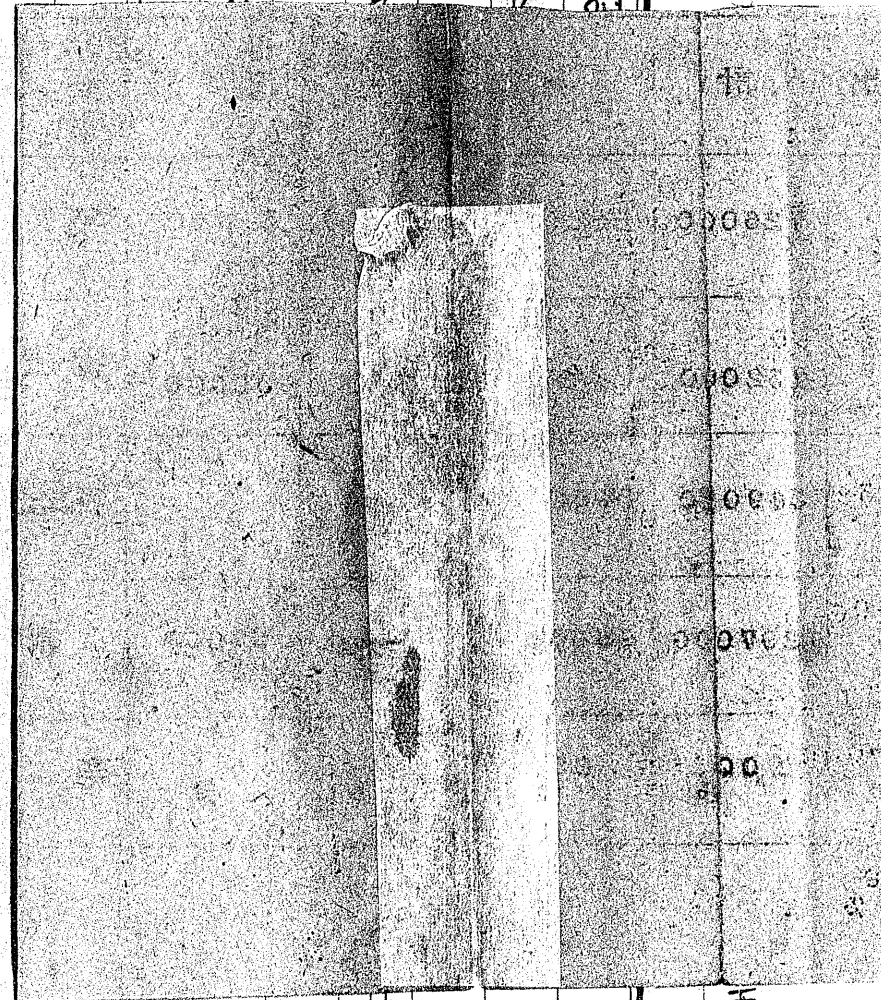
一内的

下軍

軍

花

第



昭和九年十月... 現駐在... 内地... 知ク... 精...

大東研究所

一九二二

護り再せ

428

1149  
1150

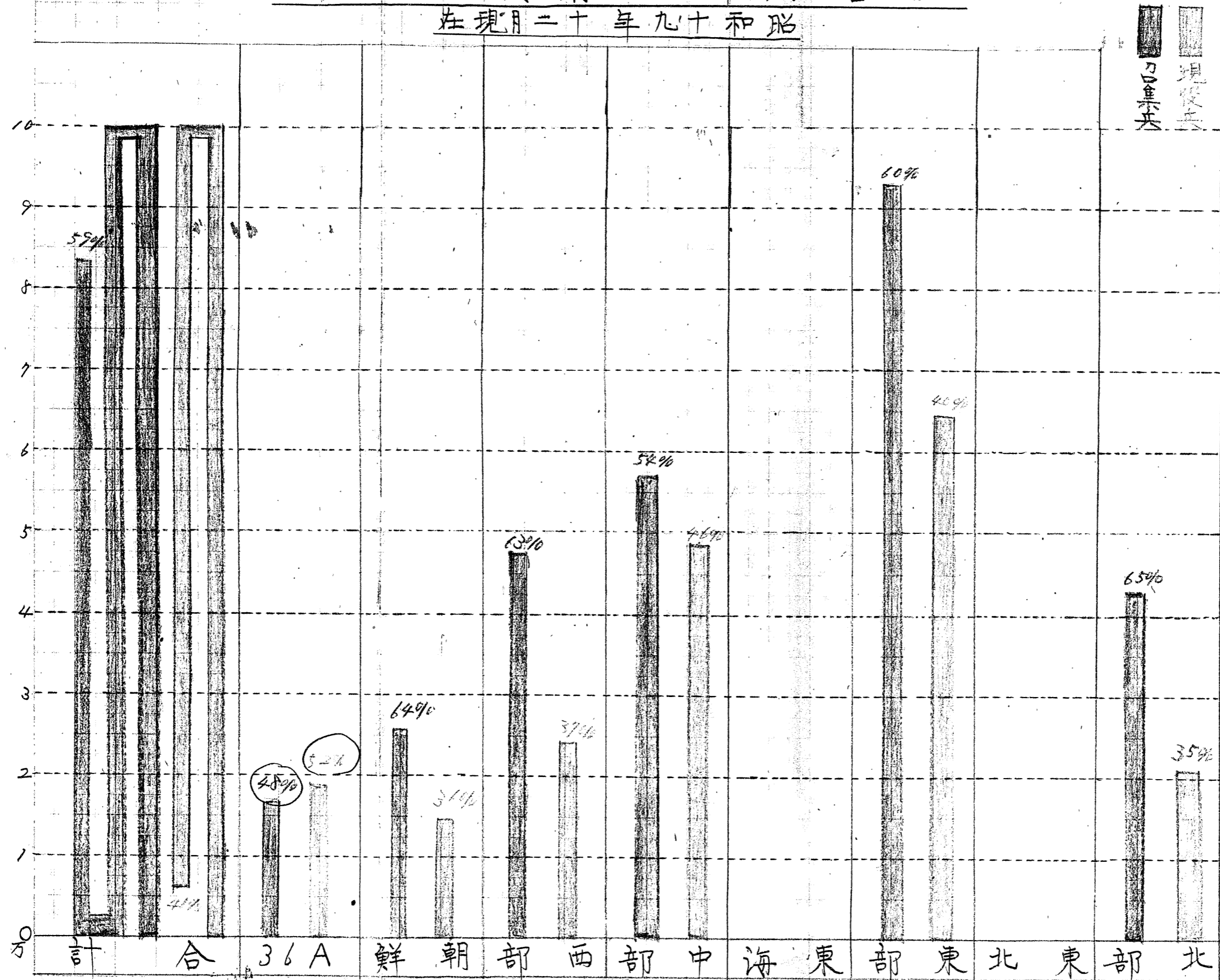
決り書  
 昭和十四年

昭和十四年及昭和十一年將校役種別現員一覽表					
階級	区分	昭和十四年		昭和十一年	
		現役	予備	現役	予備
大	將	12	<del>28</del>	19	2
中	將	160		384	100
少	將	397	28	623	413
大	佐	1319	364	2247	4054
中	佐	2360	489	2670	8108
少	佐	3515	716	10266	16217
大	尉	<del>5585</del> 4185	<del>1606</del> 1547	9564	30406
中	尉	10808	40119	12363	61320
少	尉			9155	82029
總	計	24147	43302	47291	202909
比	率	36%	69%	15%	25%

昭和十四年及昭和十一年將校役種別現員一覽表

(日本標準規格 B-4)

圖見概質素兵科兵營在  
在現月二十年九十和昭



昭和十年五月五日調製  
陸軍省 兵備課

二九〇三

階級	区分	昭和四年		昭和二十年	
		定員	現員	定員	現員
大	将	18	12	21	21
中	将	140	140	560	484
少	将	358	425	1432	1096
	計	516	597	2013	1501
大	佐	1527	1654	7096	6301
中	佐	3341	2849	16705	10998
少	佐	7366	4231	36830	26483
	計	12284	8734	60631	42562
大	尉	18595	2191	92975	39970
中(少)	尉	36202	50927	181010	164867
	計	54797	58118	273985	204837
	計	67597	67449	336629	250000

昭和十四年及昭和二十年、役種別将校現員及定員一覽表

大東研究所

二十九/四





二九ノ五

矢東研究所

第四昭和十四年ノ停校ノ園品額等ノ

前掲ノ如ク昭和十四年現役停校二、四万特別志願停校約

〇八万召年等ノ停役停校約三、五万計約六、七万ニシテ在職中

ノ停校ノ総人数ハ概テ強制定員(六万七千五百九十七名)ヲ若

クテシテモ現役停校ノ停校総人数ノ約三六%ニシテ

大抵以上ノ者等ハ之ヲ恊メ得ルモ少部左列ニ於テハ強制定

員約二万五千ニ達シ現役停校僅カニ九千ニテ特別

志願及召集申込後得枚ヲ加ふるは約一千二百一十(過)スナ  
 定員約六〇〇ノハ缺員ノ及夫大申込外リ於テ多ク代理セル  
 マル候程ニテ之ヲ事外ノ各定員ヲ充足シテ更ニ余リ  
 プリ名者外ノ世に比スレハ素價低下ハ相当ヤリト刊  
 断ルルヲ得ヘシ 今方部長及中隊長ニ就テ實例ヲ示シテ  
 レハ大隊長ノ總數約一千名中約二百名ハ現役中隊約五十  
 名ハ現役隊約六百名カ現役少隊ニテ予内地部隊ニハ

(日本標準規格 B-4)

吾々

軍高約百名、多第役中、少兵力大抵是ノ職ニ就ク中隊長

臨散約五千人、中現役大尉ハ僅ク約一千四百名ニ過キス

其他大部ニ経験ニ乏シク中尉ニシテ内外地ヲ通レ得キ

名多第役中尉ニ中隊長職務ヲ命降セラレシ者多キ

凡ソ此ニテ

第五 昭和十一年、將校ニ関シテ之ノ概

昭和十一年、終戦時ノ兵力ハ、各階級共ニ滿洲駐在ニ就ク

(軍中校員)

悉ク不足ニシテ、大尉長、中隊長級ニ於テ特ニ甚キ

1157

435

			<p>元ノリ 金殿ヤ白ニ大落長ニ大計 若ク中計 中計長ニ</p>	<p>中計若ク中計 中計階ニ係校 名程度ニシテ他ニ</p>	<p>下ニ官トシ 移向甚ニ配リモ少シクシテ予人等シルニ</p>	<p>タノ如ク</p>	<p>タリタル事揚テリ 但シ之カ名 幹部ニ進後促進</p>	<p>ニヨリ一部内ニ在テハ 幹部ノ社齡化ノ目的ヲ達セリ</p>	<p>将校進級促進状況</p>	<p>略</p>
--	--	--	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------	-------------	-------------------------------	---------------------------------	-----------------	----------

(日本標準規格 B-4)

436

1158

二十二年	九〇	一〇〇,〇〇〇
二十一年	八九	一〇〇,〇〇〇
二十年	九〇	一〇〇,〇〇〇
十九年	九〇	一〇〇,〇〇〇
十八年	九〇	一〇〇,〇〇〇
十七年	九〇	一〇〇,〇〇〇
十六年	九〇	一〇〇,〇〇〇
十五年	九〇	一〇〇,〇〇〇
十四年	九〇	一〇〇,〇〇〇
十三年	九〇	一〇〇,〇〇〇

壯丁ノ徴集率

三〇ノ數回名ノ欠ガリ異ラノ已マシケル状態ニ成リタリ  
 壯丁ノ徴集率 左表ノ如ク逐次拡大セシ十九年及二十年度迄テハ  
 三乙以上ノ全部現役兵トシテ徴集スルノ已ムナキ此況ヲ曰至シタリ

昔々徴集ノ於テモ此ノ現象ハ同様ニシテ、軍中団等ノ増大  
 ニ伴ヒ陸軍各部隊年々若ク若干ノ集合教育ヲ施セリ  
 者ツテテ昔々徴集トセルニ尚不十分ニテ終戦時徴集生員

矢東研究所

二九ノ七

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(日本標準規格 B-4)

438

1160

**国立公文書館 アジア歴史資料センター**

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

支那事變 開帝國陸軍軍紀ノ消長 (案)  
大東亞戦争

昭二一・四・三〇  
規律課

一、支那事變勃發（昭和十二年七月）ヨリ漢口、廣東攻略（昭和十三年十月）頃迄ノ期間

軍隊ハ國民ノ盛ナル歡送ノ中ニ勇躍戰地ニ向ヒ士氣甚ダ旺盛ナリ然レドモ日露戰爭以來始メテノ大動員ニシテ久シク軍事ヨリ離レタル廣召者多ク、始メテ入隊セル未教育ノモノ又少カラス。父子召集ト謂フカ如キ老齡者モアリ特ニ幹部中指揮能力著シク低キモノ多ク且新編成ノ爲部隊ノ掌握・團結不十分ニシテ甚シキハ氏名サヘ判明セサルニ戰線ニ投セラレシモノアリ之ガ爲軍隊ハ上級指揮官ノ所期ノ如ク動カス延テハ指揮權軟弱化シ甚シキハ下士官實質的ニ指揮シテ中小隊長ハ「ロボット」的ナリシ部隊サヘアリ勢ヒ對上官犯ハ相當ニ頻發セリ尙他面 酒色ニ因ル犯罪・掠奪強姦等ノ對任民犯罪相當ニ頻發セリ

註

(一) 昭和十二年、昭和十三年トノ常設軍法會議（關東軍及支那駐屯軍臨時軍法會議ヲ含ム）處刑者ヲ比較セハ左表ノ如ク犯罪總數増加シ特ニ對上官犯ノ増加比率極メテ大ナリ

犯罪總數	對上官犯	昭和十二年	昭和十三年	増加比率
七九七	三一件	一三四	四・三	
一、四一二	一・八			

(二) 昭和十二年七月ヨリ昭和十三年十二月ニ至ル間ノ内地・滿洲ノ犯罪ト事變地ニ於ケル犯罪トノ比較左表ノ如ク事變地ニ於ケル現役者ノ處刑極メテ少ク素質ノ程度ヲ示シアリ



專變地 處刑人員	内地滿洲 處刑人員	將校准士官		下士官		兵		軍屬
		現役	召集	現役	召集	現役	召集	
六	一〇							
一九	一三							
一五	一一八							
五五	五六							
一一五	六八九							
七三〇	四九八							
一八一	一一七							

三、支那專變膠着時代ヨリ大東亞戰爭開始（昭和十六年十二月）迄本  
 期間ハ支那專變當初ノ荒削り式ニ反省ヲ加ヘ軍隊ノ素質・教育ノ  
 向上ヲ圖リ軍紀上モ比較的改善セラレタルモノト認めラル  
 即チ幹部候補生及少年兵ノ増徴並其ノ教育ニ力ヲ用フルノ他士官  
 候補生ノ増加並其ノ早期教育ニ努力シ尙軍事予備教育ヲ大イニ奨  
 勵スル等幹部ノ素質能力ノ向上ニ努力メ軍隊ニ於テモ逐次教育特ニ  
 幹部ノ指揮能力ノ向上ニ努力セリ 又老兵並ニ長期在隊者ノ補充  
 交代・若返リニ努ムルト共ニ軍紀ノ肅正ヲ強調シ就中掠奪強姦等

ノ對住民犯・上官犯等ニ對シテ嚴罰ヲ以テ其ノ絶滅ニ努力セリ同  
時ニ軍隊ニ對シテハ努メテ駐屯固有地ヲ定メ慰安施設等ニモ考慮  
ヲ拂ヒ問題ヲ惹起シ易キ後方部隊等ハ相當之ヲ整理セリ  
此ノ如クシテ軍隊ハ一般ニハ逐次緊縮シ落付キヲ示シ殊ニ一般軍  
隊ノ常設現役部隊化セルト相俟ツテ傳統ト團結ヲ重ンジテ自制シ  
各人相互ニ相戒メ相助グルノ氣風ヲ生ジ他面幹部ノ指揮能力ノ向  
上兵ノ若年化ニヨル統率力ノ加重等ニヨリ犯罪面ニ於テモ逐次面  
目ヲ一新シ(特ニ支那ニ於テ著シ)軍隊ノ行動又著シク輕快トナ  
レリ

然レドモ戰爭長期ニ亘ルニ隨ヒ逃亡・圖免從軍詐僞行爲等ノ士氣  
ニ關係アル犯罪ハ漸増シ事變地後方地區ニ於ケル軍ノ特權ニ使乘  
スル軍政的諸問題ヲ惹起シ又國民經濟生活ノ逼迫化ノ隨伴現象並  
ニ經理軍紀ノ弛緩トモ認メラルル官物劫盜・横領・收賄罪等ノ犯  
行漸増シ一方強姦等ハ逐次減少セルモ對上官犯ハ昭和十六年ニ亘

陸軍

註  
 ツテ増加スル等軍紀ノ眞ノ刷新ニハ未ダシノ感アリ  
 尙獨蘇開戦ニ件ヒ滿洲ニ増兵セラレ該方面ニ於テ多少ノ問題ヲ生  
 ゼルモ多年ノ傳統ト素質良好ナル常設師團ヲ基幹トセル編成ト實  
 地訓練ト相俟ツテ軍紀概シテ鞏固ナルモノアリ

昭和十四年乃至十五年ニ於ケル主要ナル處刑人員數ノ比較左表  
 ノ如シ

年	犯罪名	飲酒と起因スル犯罪數	對上官犯	逃亡	強姦	劫盜	橫領	收賄
昭和十四年		四九八	二二六	一一一	一五五	四五〇	一二八	七八
十五年		四四〇	一七四	一四七	一二八	七四一	二〇九	六九
十六年		四五一	二四八	一七二	六三	七五七	一七一	八二

三 大東亞戰爭進撃時代（昭和十八年初頭迄）

大東亞戰勃發スルヤ一般ノ士氣昂リ軍紀又比較的緊縮セリ  
即チ南方地域ニ於テハ既往ノ經驗ニ鑑ミ特ニ戒ムル所アリ（軍隊  
ハ努メテ大住民地ヲ避ケテ對住民犯ヲ予防セリ）對上官犯等モ比  
較的多發セス 然レドモ他面兵力ノ增強ヲ要スルニ伴ヒ軍隊ノ移  
動並ニ編成替極メテ頻繁トナリ滿洲・支那ニ在ル軍隊ハ恰モ内地  
ノ補充隊ノ如キ状態トナリ又指揮官ノ交迭頻繁トナリ兵ハ内地入  
營直後送ラレ且予算上古參兵ト重複シテ初年兵教育ヲスルコトサ  
ヘ不可能トナリ「銃ノ持チ方ヲ祿ニ知ラス第一線ニ立ツ」式ノ状  
態トナリ他面所謂「豪傑」ト稱セララル不良兵ノ遞傳式異動ハ重  
大ナル軍紀犯ノ原因ヲ爲セリ  
其ノ他滿洲・支那ノ一部ニ於テハ忘却セラレタル眞空地帯トシテ  
氣合ノカカラヌ長期滯陣ニ倦ミシ弛ミヲ生ゼル虞アリ（以上ノ状  
態ハ幹部ト云ハス兵ト云ハス水ヲウメシ温水ノ如ク見カケノ割ニ

内容ハ遙カニ薄弱トナレリ。更ニ軍需生産等ノ要求上一部特技者ノ早期交代並ニ特技ヲ生カシテ使フ爲航空・鐵道・船舶・戰車部隊ヘノ將兵ノ轉屬頻々ト行ハレサルニ到レリ。之カ爲滿・支部隊ニ於テハ動カスシテ然モ落付キヲ失フ部隊アリ。

以上ノ結果郷黨ノ見ル虞アリ。内地ヤ支那事變當初ノ惡弊ヲ除キタル激戰地以外ノ地ニ於テ往々意外ナル極端ナル大事故ノ突發ヲ見ルニ至レリ（例ヘハ館陶事件其ノ他ノ如キ集團的大上官犯ヲ見ルニ至レリ。又支那ニ於ケル憲兵ノ軍紀上ノ事故多シ）。

茲ニ於テ益々軍隊ノ團結強化ノ爲基幹部隊・基幹人員ノ存置・憲兵ノ移動禁止等ニ努ムルト共ニ指揮權ノ強化ヲ強調セラレ幹部ノ自肅且率先ヲ要求セラレ（某部隊ニ於テ所謂「隊中ノ毒虫」的兵ヲ暴行ノ直前ニ斷乎制セル將校ノ行爲ハ反テ大イニ認メラルル等ニヨリ幹部自ラ指揮權ノ強化ニ努メタリ）。

尙病院ニ於ケル患者タル將兵ノ士氣軍紀ノ振作ニ努メ又逃亡兵ノ

最大原因タル私的制裁ノ積弊一掃ニ大イニ努力セラレ相當見ルベ  
 キモノアリタルモ多年ノ因習ハ大勢ヲ變力シ得スシテ終リシモノ  
 ト判斷セラレアリ  
 註 主要犯罪數ノ比較左表ノ如シ

	昭和十六年	昭和十七年	昭和十八年	昭和十九年
對上官犯	三一六	三六〇	四二一	三三五
強姦	七〇	二三四	一一四	一三〇
逃亡	四三四	八三九	八九五	一、一〇八

四 大東亞戰爭中期以降終戰時迄

「ガダルカナル」撤退以來逐次我方ノ形勢思ハシカラザルニ到  
 ルヤ第一線モ後方モ一抹ノ暗イ氣持ヲ持チ殊ニ海没ノ多發ハ外  
 征者並ニ内地人ニ不安感ヲ生ゼシメ外地第一線ハ補給不足ニ件

フ餓餓状態ヨリ士氣、軍紀低下シ加フルニ敗退、制空、制火權下ノ戰鬥ニ必勝感ヲ失フ軍隊ヲ生スルニ到レリ。之ガ爲逃亡者増加シ甚シキハ小部隊ヲ以テスル投降、中兵將校ノ指揮スルモノサヘ生スルニ到リ將校ノ辱職モ散發シ服務戰鬥消極的トナレル處アリ。然レドモ確手タル指揮官ヲ持チ訓練精到ナル軍隊ニ於テハ直ニ日本軍ノ強味ヲ發揮セルモノ亦少カラズ全般的ニハ概シテ困難ナル各種ノ狀況ニ處シテ日本軍ナレバコソノ軍紀ヲ以テ戦力ヲ發揮セルモノト思ヘル。

2. 此ノ間ニ於テ朝鮮、臺灣兵ノ入營、特幹ノ召募等ト相俟テ大動員ヲ内地ニ行フヤ一般士氣ノ低下、丙種入營、老兵ノ入營ノ如キ素質ノ低下ハ幹部ノ過早採用ト相俟テ軍隊ノ指揮掌握不十分ニヨリ逃亡兵續出シ朝鮮獨立ノ集團的策動ヲ起スモノアリ。又内地ニ於テ食糧事情ノ急迫ニヨリ軍隊内ニ營養失調症ヲ多發シ甚シク戦力ヲ低下セルノミナラス之ニ伴フ小犯罪ヲ續出セリ。

尙戰況ノ不<sup>利</sup>明ニ件ヒ素質不良ナル下士官ニシテ不敬事件ヲ惹起セルモノアリ

3. 大東亞戰爭末期ニ於テハ軍需生産ノ急ナルニ件ヒ各種變態ノ形ヲトリ工員、船員ノ儘ノ位置ニテ兵トシ或ハ兵ニ採リテ工場ニ出シ又ハ食糧増産専門ノ兵ヲ設クル等一般人トノ區分不明瞭ナル雜兵、雜軍隊ヲ生シ更ニ特<sup>技</sup>軍人制、各部ト兵科ノ區分撤廢、次イテ驍勇戰斗隊ノ兵制トナリ指揮權、軍紀ハ其ノ必要ヲ感シラレツツ而モ<sup>單</sup>軍ニ形ノミニヨリ名ヲカヘテ軍隊ガ成立シ訓練セシテ直ニ軍人トナル誤解ヲ生シ以前ノ軍紀觀念ヲ以テ考ヘラレサル低調ヲ是認スルモノモ生ズルニ到レリ而シテ一方軍需管理官ヲ始メ部外<sup>外</sup>權ト密接ナル繋ガリヲ有スル者ノ中ニ軍ノ自肅自戒ノ不良軍ノ橫暴、收賄等軍紀ノ鬆弛ヲ疑ハシムル事實ヲ生シ他方内地戰場化ニ件ヒ軍隊到ル處ニ駐屯シ民有地ニ築城ヲ施シ食糧ヲ<sup>徴</sup>運スル等ニヨリ軍民間ニ各種ノ紛争ヲ生シ軍隊

1170

448



ノ素質ノ低下ハ戰況ノ不利ニ伴ヒ愈々國民ノ軍ニ對スル信望ヲ失スルニ至リ軍民離間ノ事象各所ニ發生セリ但シ精銳ナル第一線部隊ニアリテハ軍紀嚴正ニシテ住民ノ信賴ヲ後内地ノ決戰ニ必勝ノ確信ヲ有スルモノ尠カラス

4. 右ノ他内外地共一般ニ航空後方部隊・船舶部隊・雜種ノ部隊ハ軍紀ニ於テ劣<sup>劣</sup>カルモノアリ尙海軍ニ於テハ陸軍ヨリモ更ニ甚シキモノアリ

5. 終戰直後ニ於テハ軍需品ノ不正處理ト終戰反對ノ越軌行動ヲ惹起セルモ前者ハ世上傳ヘラルル如ク陸軍全數ノ腐敗ヲ現ハスモノニアラス又後者ハ純情ナル動機ニ出テシモノニシテ大過ナク收拾セラレ内外共ニ果敢勇猛比ナキ軍隊ガ終戰ノ大命一下完全ニ武器ヲ捨テテ消極的軍紀面ノ最高峰ヲ示セリ

## 五 結 言

之ヲ要スルニ支那事變以來陸軍軍隊ノ軍紀ハ時ト所トニヨリ一  
弛アリ又素質ノ低下・作戰ノ連備等ノ各種ノ困難ナル環境下ニ  
モ拘ラス概シテ形ノ上ニ於テハ大ナル破綻ヲ生スルコトナク特ニ  
戰鬥場裡ニ於テ日本人ノ特性ヲ遺憾ナク發揮シ予想以上ニ斷命必  
遂シ肉親の親愛又概シテ戰陣ノ間ニ於テ平時以上ニ増加シ血ノ繁  
ガレル軍紀君國ニ殉セントスル高度ノ軍紀ヲ以テ皇軍タルノ特徴  
ヲヨク發揮セルモノト信ス 但シ擴充ニ次ク擴充ノ爲素質不良ナ  
ルモノヲ精到ナル訓練ヲ以テ補フノ餘裕ナリ 日本國民全般ノ低  
調ナル教養ハ補給ノ困難・戰場ニ於ケル昂奮等ニ左右セラレテ或  
ハ對住民犯・對俘虜犯等トナリ戰爭ノ長期ハ幹部ニ於テモ又之ニ  
倦ミテ積極潑刺タル獨斷・從來ノ陣勢ヲ一擲スル飛躍的施策ニ缺  
ケ而モ實質剛健他ノ指揮スル餘地ナカラシムル程ノ自省ナク總力  
戰的近代戰ノ各種部門ニ通ゼサル軍人ノ非常戰ハ特ニ戰況ノ不利  
ト共ニ軍民離間ノ一轉ヲ爲シ以テ終戰後ノ世評ノ裏付ケヲ爲シア

1172

450

ルハ遺憾トスル所ナリ

陸軍

1173

451

三九一四

自昭和十二年七月  
至昭和十九年十二月  
軍法會議處刑人員各地年別表

備考	昭和十二年 (七月以降)			昭和十三年			昭和十四年			昭和十五年			昭和十六年			昭和十七年			昭和十八年			昭和十九年 (十二月迄)		
	兵力概數	處刑人員	千分比	兵力概數	處刑人員	千分比	兵力概數	處刑人員	千分比	兵力概數	處刑人員	千分比	兵力概數	處刑人員	千分比	兵力概數	處刑人員	千分比	兵力概數	處刑人員	千分比			
内地ニハ朝鮮、臺灣ヲ含ム 南方ニハ中部、南東太平洋ヲ含ム	内地	25万	290	25万	290	25万	27万	27万	27万	27万	27万	27万	27万	27万	27万	27万	27万	27万	27万	27万	27万			
	滿洲	20万	54	20万	54	20万	54	20万	54	20万	54	20万	54	20万	54	20万	54	20万	54	20万	54	20万		
	支那	50万	177	50万	177	50万	177	50万	177	50万	177	50万	177	50万	177	50万	177	50万	177	50万	177	50万		
	南方																							
	計	95万	521	95万	521	95万	521	95万	521	95万	521	95万	521	95万	521	95万	521	95万	521	95万	521	95万		
	摘要																							

陸軍  
二九一五

昭和十八年十二月軍法會議受理及未決事件罪名別人員表

陸軍省法務局

月	降	累	計	受																			計	降	未														
				內地	滿洲	支那	南方	計	一月以	內地	滿洲	支那	南方	計																									
三	三	四	三	九	三	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	三	四	二	三	三	二	九	四	三	八	四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
七	七	五	七	二	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三
一	一	七	七	二	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三
一	一	七	七	二	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三
二	二	六	二	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	
二	二	六	二	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	
二	二	六	二	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	
六	六	七	六	一	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三
七	七	五	七	二	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三
三	三	八	三	一	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三
二	二	五	二	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	
二	二	五	二	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	
二	二	五	二	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	
二	二	五	二	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	
二	二	五	二	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	
二	二	五	二	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	
二	二	五	二	二	三	四	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	三	二	五	二	三	

前	外國人	常 人	軍 從 屬 者	長 官	現 在	下 士 官		准 士 官		將 校		身 區	
						召 用	現 在	召 用	現 在	召 用	現 在	分 別	分 別
一八九七	二三	二〇	八二八	四六	三三	五八	二二	四	二二	二九	三〇	內 地	處 刑
二〇〇三	二二	三七七	五〇八	二二八	九八	八	九	一	三	一七	二二	地	不 起 訴 其 他
八九八	二	四	一五六	二四一	三三	三三	六	一	二	二五	一八	滿 洲	處 刑
一九九	一	五	二〇	五五	七六	八	三			八	一三	洲	不 起 訴 其 他
二二二	三五	一三〇	一四〇	三三二	四七九	四二	三三	二	二	三〇	八	支 那	處 刑
三三二	五	四五	三八	七三	一四四	三	二五	二	二	一三	四	南 方	不 起 訴 其 他
八六〇	七七	八三	一八五	一三六	一六	三八	五〇	一	五	一五	九	計	處 刑
二八五	三六	一五	三	四六	五三	一〇	二			九	四	方	不 起 訴 其 他
四九七	一三九	二三七	二九九	二〇五	二四四	一七〇	三七一	八	三八	九九	六五	計	處 刑
二九四九	五	四四二	五九七	三〇一	三五	二九	七六	一	五	四七	四三	計	不 起 訴 其 他

昭和十八年軍法會議處理事件身分別表

陸軍省法務局

二九一七



一月以降累計	計	外國人	軍人(邦人)	軍從屬者	軍屬	生徒	兵		准士官		將校		身分	
							召	現	召	現	召	現	處刑	不起訴 其他
一三〇四	二二六	一			七〇	一	七六	三〇	五	一〇	一	二二	七	內 地
八三三	一〇七		一七	一	二四		二六	一五	五	三		五		濟 洲
六七六	七七				二二		二五	二七		二二				支 那
二〇〇	一九				一		五	九	四	一五		二		南 方
八四〇	二九	一	三		九		三三	三〇						計
一五九	一九				三		五	六	二	一				一月以降累計
五六二	五二	二			八		二二	二二	三	三		二		處刑
一四四	二〇				二		二二	二二	二	一				其他
	四六四	四	二六		二〇〇	一	二四五	三三	二二	四〇	一	一五	八	處刑
	二六五	一	一九	一	四〇		二四八	三〇	九	五	一	九	二	其他
三三八		九九	一三七	二	七九〇	五	九七九	八九〇	二四	二七	三	八七	五	處刑
一三三六		一一	三六八	六	二七九	四	三〇一	三三六	三三	三七	一	四一	二〇	其他

昭和十九年七月軍法會議處理事件身分別表

陸軍省法務局

二九一九



陸軍

二九ノ二

及内的戦力の二ノ為 編成上着意せらるるノ事項

(四) 作戦化務ニ應之ニ如ク機動高ノ遠征主義ヲ

標①ス

(五) 報告特ニ編成當部ノ對美ノ重視

幹部及所屬ノ甚多人員ヲ此ヲ團結ノ且自幹ヲ

形成シ 裝備資材ノ製造ニ伴ヒ兵員ヲ

逐次ニ充足スルニ方格ヲ採用ス

(六) 報團誌ノ冊誌ノ尤如ク配設部隊ノ冊誌

1179

458

し。可。入。の。及。又。の。人。意。ヲ。撰。出。編。成。ス。

(一) 兵部、神印ノ旨、次の如キ旨の奉答ヲ考(通抄)

(皇意奉答ニ御旨の因縁)

通抄ニ配還ス 神印ニ於テハ、特旨命ノ因縁等ニ

考慮セラル。

(二) 編成準備、後庭

(本陣ニ努カセラル等)

ナリ等アリ等)

(三) 編成旨、報告書記

併